

研究タイトル:

氏名: 奥山 広規 / おくやま ひろき E-mail: okuyama@tokuyama.ac.jp

職名: 准教授 学位: 博士(文学)

所属学会・協会: 広島史学研究会, 広島西洋史学研究会, 日本西洋古典学会 他

キーワード: 古代ローマ史, 西洋古代史料学(グラフィッティ, 碑文)

技術相談  
提供可能技術: ・西洋古代文字史資料分析  
(活字化される前のギリシア語・ラテン語史資料の分析(文字同定, 支持体分析など))



研究内容:

1) 現在の研究課題の概要

古代ローマ時代の日常生活についてグラフィッティの観点から研究を行っている。検討の対象となる遺跡は、主にエルコラーノ、ポンペイ、オスティア＝アンティカの 3 つであり、現地調査を行ってグラフィッティを実見し、コンテキストを踏まえた分析を行ってきた。エルコラーノ遺跡・ポンペイ遺跡では、先行調査・研究が極めて厚いので、その把握とグラフィッティの実見にとどまっているが、オスティア＝アンティカ遺跡では、先行調査も研究も少ないので、まずはコンテキストを踏まえたデータを得るために 2017 年以來既知グラフィッティの悉皆調査(既知グラフィッティの確認、現状と実態把握)に取り組み、成果を上げている。たとえば、2024 年度では、9 の遺構で行った確認調査による 9 点の既知グラフィッティの確認、実見に基づく 9 点の新たな知見の獲得(情報の追加、従来の判読や解釈の修正)、そして、確認調査に際して 6 つの遺構から発見した新出グラフィッティ 35 点(文字グラフィッティ 31 点(数字 25 点, 商業関係 3 点, 日付 1 点, 不明な文字列 2 点), 画像グラフィッティ 4 点(人物画像 2 点, 不明なオブジェクト 2 点))の刊行である。新出グラフィッティの多くは単純な「数字」であるが、数字ゲームやゲームボードと解釈できるものがあり、「数字」の機能を広げるものとして重要である。また、Caseggiato (III, XVI, 2)は「数字」が 1 か所に 17 点も集中しており、Caseggiato dietro la Curia (I, IX, 1)でのみ知られていた「数字」の集中(1 か所に 33 点)の類例として興味深い。結果として、通算で対象となる 64 遺構(887 点)のうち 48 遺構(792 点)で調査を行い、そのうち、新出グラフィッティも含めて 588 点を確認することができた。なお悉皆調査によって得られた情報は、史料紹介として刊行したうえで、テーマごとの分析に落とし込んでいる(「数字」については学会報告し、「性的」なものについては学会報告を経て、論考として刊行した。なお、エルコラーノ遺跡・ポンペイ遺跡の現地調査による実見成果は、比較対象としてオスティア研究に盛り込んでいる。

2) 主な学会発表・研究業績(近年のもののみ)

【学会発表】

・「オスティアの『数字』グラフィッティ『画線法』を中心に」、2025 年度中国四国歴史学地理学協会大会 (於: 広島大学、2025 年 7 月 20 日)

【研究業績】

・「オスティアの『性的』グラフィッティ『Domus di Giove e Ganimede (I.iv.2)』」、『史学研究』(広島史学研究会), 第 313 号, 38-55 頁, 2022 年 9 月。

・「2022 年度オスティア・アンティカ遺跡グラフィッティ調査報告」, 『西洋史学報』(広島西洋史学研究会), 第 50 号, 213-235 頁, 2023 年 11 月。

・「2023 年度オスティア・アンティカ遺跡グラフィッティ調査報告」, 『西洋史学報』(広島西洋史学研究会), 第 51 号, 79-96 頁, 2024 年 12 月。

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	